

令和八年度が始まりました。本年度も愛知県埋蔵文化財センターでは、各地での発掘調査に加え、さまざまな広報事業も計画しております。

発掘調査では、愛知県基幹的広域防災拠点整備事業や中小河川改良工事（一級河川 鹿乗川）、設楽ダム建設など、八事業で十二遺跡を対象に、約二万八千平方メートル程を実施する予定です（下図を参照）。その調査成果はホームページやX（旧ツイッター）などで紹介したり、地元説明会や広報誌で調査の状況や結果をお知らせしていきます。

一方、弥富にある調査センターでは、発掘調査を終えた遺跡の調査報告書を作成するために、遺跡の整理作業を実施します。本年度は国土交通省中部地方整備局の設楽ダムに関わる下延坂遺跡をはじめ、四事業の五遺跡を対象に進めてまいります。

続いて、広報活動ですが、今年も以下の六事業を実施する予定です。

◎春の埋蔵文化財展「やとみ新発見展二〇二六」と題して、四月四日から四月十七日まで弥富の調査センターの二階にて、令和七年度の発掘調査成果をご紹介します。あわせて、保存処理が終了した名城公園遺跡から出土した田舟の展示を実施します。田舟は全長二・五メートルのヒノキでできた槽です。使用方法などは不明ですが、全国で数例しか出土例が確認されていない貴重なものです。

このほか、各遺跡から出土したばかりの遺物がまとめて展示されます。

◎連続歴史講座 四月二十三日と五月二十八日の午前に歴史講座を開講いたします。今年のテーマは『環境の考古学』。今年度も、春は弥富市、秋は安城市での歴史講座を予定しております。

◎秋の埋蔵文化財展 令和八年度の秋に、調査センターの特別公開に合わせて、イベントを開催する予定です。

◎考古学フェア「あいちの考古学二〇二六」今年度も十一月十日から二十九日まで金山にあります。名古屋都市センターで開催します。愛知県内を中心に考古学に関連する情報を集め、ポスター展示やシンポジウム等を行う「考古学セミナー」と、考古学を楽しむための「考古学フェスタ」を開催します。ポスター展示では、あいち埋文サポーターズクラブの発表も予定しています。

◎企画展「あいちの発掘調査二〇二六」令和九年一月から三月まであいち朝日遺跡ミュージアムにて企画展を行います。令和七年度に実施された県内各地の発掘調査成果を紹介していきます。

このほかに、当センターの広報活動を支援していただくための「あいち埋文サポーターズクラブ」では、遺跡見学会や土器作成実験、木製品の保存処理体験など楽しい活動を計画しています。

埋文桜ニュース

発行日：二〇二六年四月四日
発行所：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017
愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24
電話：0567-67-4163
ファックス：0567-67-3054
ホームページ：http://www.maibun.com
X：https://x.com/aichi_maibun
メールアドレス：doki@maibun.com

連続歴史講座 春は弥富、秋は安城

環境の考古学

土器に残された植物痕跡や石器からみえてくる「環境」について考えます。

2026年考古学の祭典 考古学フェア

2026年11月10日(火)～29日(日)
名古屋都市センターにて開催!

あいち埋文サポーターズクラブ 会員募集中!

年会費1,000円!
会員限定の遺跡見学会など!
楽しい企画がたくさん!

ナゾ多きものたち

春の特別公開 2026 愛知県埋蔵文化財調査センター 収蔵庫に眠る逸品たち 6

同時開催

2026年4月4日(土)～4月17日(金)

古墳時代 弥生時代

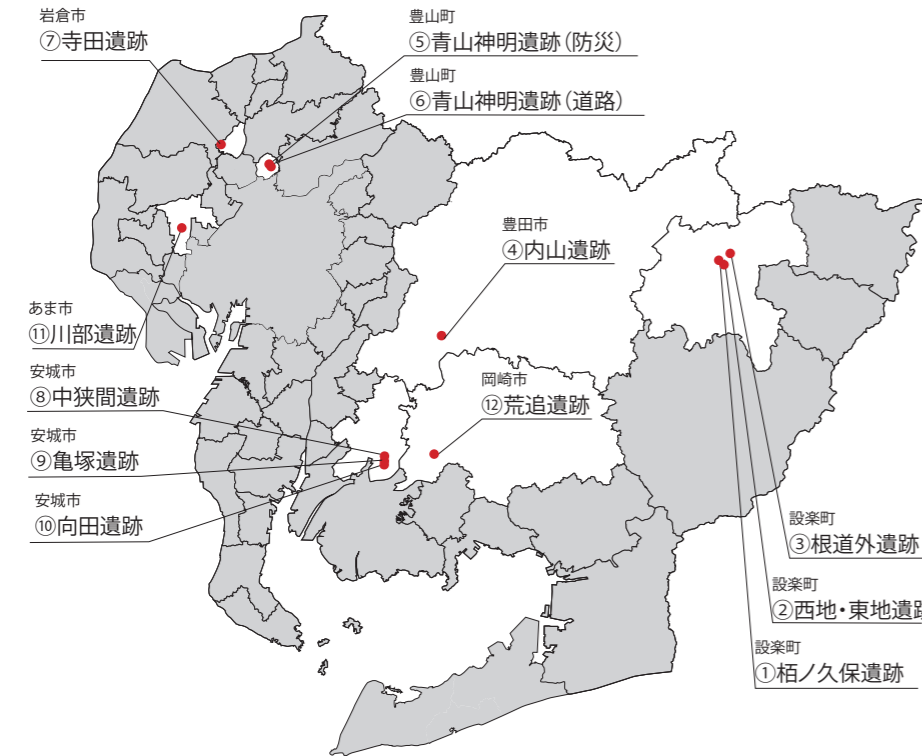


4月4日(土)・5日(日)は特別開館日

火起こし体験 と 展示解説を実施します。

山茶ワン！
収蔵庫に眠る「ナゾ多きものたち」を展示するよ。
使い方を考えてみてね。

令和8年度の調査予定遺跡



令和8年度 イベント案内

4/4(土)から4/17(金)	春の埋蔵文化財展『やとみ新発見展(しんはつけんでん)！2026』& 春の特別公開 ☆昨年度の発掘調査成果について、今年度最初に展示解説を行います。また、特別にセレクトした逸品の遺物を特別公開します！ ☆4月4日(土)と5日(日)は特別開館します。4月11日(土)、12日(日)は閉館。 予約不要・入場無料
4/23(木) 5/28(木)	連続歴史講座『環境の考古学』 全4回 春：弥富市で開催！ 秋：安城市で開催！ ☆「環境」に焦点を当て、土器から採取した植物圧痕や石器などから環境と社会の関係を考えていきます。 会場：愛知県埋蔵文化財調査センター 2階研修室 時間：午前10時30分から正午まで 各講座50名 ① 4月23日(木)「土器の中のタネを読む -土器圧痕からみた縄文時代の植物利用-」 柳原 麻子 ② 5月28日(木)「石器から読み解く！先史時代の資源獲得戦略！ -設楽地域の遺跡を中心として-」 田中 良
秋 未定	秋の埋蔵文化財展 ☆イベントを開催予定 予約不要・入場無料 会場：愛知県埋蔵文化財調査センター 2階
11/10(火)から29(日)	令和8年度考古学フェア『あいちの考古学2026』 予約不要・参加費無料 ☆愛知県内と近隣の情報を手に入れることができるピックアップイベント！ 日時：11月10日(火)～29日(日) 会場：名古屋都市センター(金山南ビル) == 詳細が決定次第 HPにてお知らせします。
1/16(火)から3/7(日)	企画展「あいちの発掘調査2026」 予約不要・入館料が必要 ☆あいち朝日遺跡ミュージアムの委託事業として、2025年度に実施された県下の発掘調査成果の速報展を開催します。 == 詳細が決定次第 HPにてお知らせします。

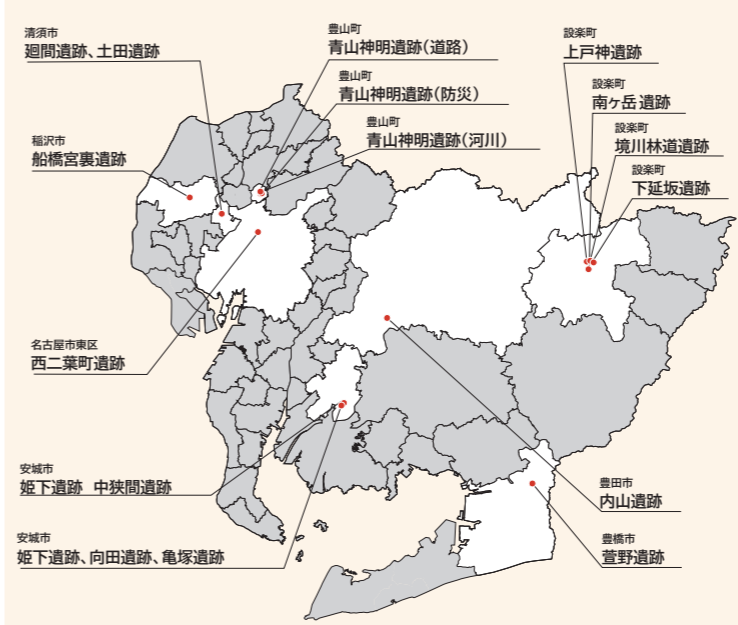
あいち埋文サポーターズクラブ募集のお知らせ！ ☆年会費 1,000円で考古学を楽しみましょう！
愛知県埋蔵文化財センターの発掘調査現場の見学会や、土器づくりや保存処理体験などの楽しいワークショップを企画しています。
年度終了時には、サポーターズクラブ用の特別ペーパークラフトとクリアファイルをお届けします。

令和七年度の発掘調査成果について

愛知県埋蔵文化財センターでは、令和七年度に、尾張地域で五遺跡、三河地域十遺跡で発掘調査を行いました。このうち十一遺跡について調査成果をご簡単に紹介いたします。



令和七年度 発掘調査遺跡位置図



中世の土坑と杭列が出土

船橋宮裏遺跡

(稲沢市船橋宮裏町)

標高2.5メートルほどの三宅川右岸の自然堤防上に立地しています。中世の土坑と杭列が見つかりました。杭列は十本以上で構成されており、そのうち4本は南北方向に並んで見つかりました。遺物では山茶碗片が見つっています。

古墳時代前期初頭 集落跡北端を確認

土田遺跡

(清須市西市場)

遺跡は、標高3メートル前後、五条川右岸の沖積低地に立地しています。中世・近世の遺構が多いものの、古墳時代の竪穴建物跡二基と溝・土坑などが見つかりました。調査区北端には古墳時代前期初頭頃の落ち込みがあり、急勾配で深く落ち込むことから、集落の北限と考えられます。

古墳時代前期初頭 集落居住域の調査

廻間遺跡

(清須市廻間)

遺跡は、標高3メートル前後、五条川右岸の沖積低地に立地しています。古墳時代前期初頭の遺構としては、土坑と柱穴跡が主体であり、S字甕など土師器がまとまって出土しています。中世の遺構・遺物も多く、結構設置の井戸は、清洲城下町遺跡における後期城下町期（江戸時代初期）に属するものと考えられます。

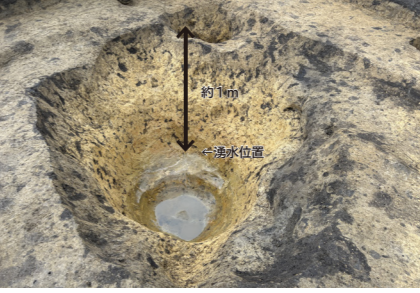
豊山町の新たな歴史が多数発見

青山神明遺跡（豊山町青山神明）

遺跡は標高約10メートル、大山川と中江川に挟まれた、北東部からの低位段丘上にあります。古墳時代や古代の集落跡、中世の集落・墓地関係の遺構などがまとまって調査されています。縄文時代草創期の有古尖頭器も見つかり、この時代、当地が狩猟場であった様子も見る事ができます。



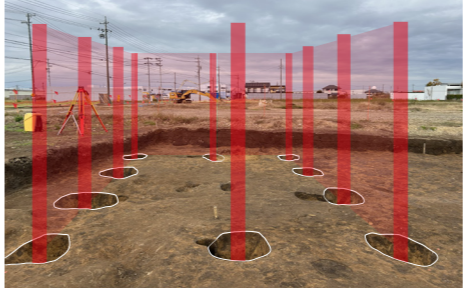
調査区全景



井戸 完掘の様子【中世】



須恵器が出土した井戸【古代】



掘立柱建物跡【古代】

近世成瀬家屋敷跡と近代中・高等教育の場

西二葉町遺跡

(名古屋市中区白壁二丁目)

遺跡は、標高15・5メートル、名古屋台地の北縁に立地しています。江戸時代では、地下室や庭関係遺構など、成瀬隼人正中屋敷地の裏の様子が確認されました。また、近代以降では、旧制愛知県立第一中学校をはじめとする各学校基礎跡のほか、学校の用具・器具などが一括して捨てられた遺構が、調査されました。



愛知一中 徽章【近代】



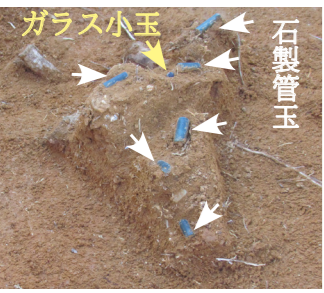
池状遺構【近世】

墳丘の消えてしまった古墳群発見

内山遺跡

(豊田市秋葉町十丁目)

遺跡は、標高約60メートル、「鶴の首」と呼ばれる矢作川がすぼまり狭くなった地点の西岸丘陵上にあります。墳丘はなくなっていますが、痕跡からいずれも円墳と考えられる古墳が3基見つかりました。そのうちの一基の石室のあった場所からは、石製管玉・粟玉・琥珀玉・ガラス小玉が、まとまって出土しました。



玉類の出土【古墳時代】



古墳群の様子【古墳時代】

古墳時代前期の祭祀場と古代耕作地

姫下遺跡

(安城市桜井町・川中町)

遺跡は標高8メートル、矢作川下流域の鹿乗川左岸の沖積地に立地しています。特に注目される遺構は、南側調査区で見つかった古墳時代前期の流路跡と井泉です。北側調査区は、自然堤防の縁辺部から後背湿地に当たると考えられます。調査区の北側では畑が営まれ、南の湿地では水田が営まれました。



井泉【古墳時代初頭～前葉】

墓域・集落域の北端を確認

中狭間遺跡

(安城市姫小川町ほか)

遺跡は、標高約10メートル、碧海台地東縁部から沖積地に展開する鹿乗川流域遺跡群の北群にあります。調査では、古墳時代から平安時代の溝や土坑・柱穴跡が見つかりました。下面調査で見つかった不明遺構は、断面から、自然の地形の傾斜、もしくは当時のヒトの足跡が集中して凹んだ場所の可能性がります。

古代包含層を確認

向田遺跡

(安城市姫東町)

遺跡は標高8メートル、矢作川下流域の鹿乗川左岸の沖積地に立地しています。調査区北東端では流路跡の岸端が見つかり、流路跡の外では、古代の遺物包含層と遺跡群が確認されました。

縄文集落跡の調査

下延坂遺跡

(設楽町川向)

遺跡は標高約40メートル、境川の右岸河岸段丘から山麓の丘陵斜面に立地しています。調査では、縄文時代中期後半の竪穴建物跡・土坑・集石遺構などからなる集落跡が見つかりました。土器のほか、石鏃・打製石斧・磨製石斧などの石器や、石棒・軽石などの石製品が見つかりました。



土器出土の様子【縄文時代】

古代の方形区画と中近世の屋敷跡

菅野遺跡

(豊橋市石巻本町)

遺跡は、標高約20メートル、豊川左岸の河岸段丘縁辺部に立地しています。注目すべきは、調査区北端の、二条の溝に囲まれた、巨大な古代の方形区画です。特別な区画と考えられ、なかに掘立柱建物跡も確認されています。調査区全体は、溝・掘立柱建物跡・土坑などからなる、中世末・近世の屋敷跡が調査されました。



須恵器長頸瓶【古代】



方形区画の様子【古代】